

1. 基本方針について

ご利用者“一人ひとりの個性や生活リズムを尊重したケアの実現”のため、ハード面とソフト面を見直し、楽しく生活できる環境や関係づくりに力を入れていくこと、それら実現するため、更なる職員の質の向上を目指していくことでしたが、原発事故の余波は想像を超えるものであり、ご利用者も職員も、不安や戸惑い、葛藤との戦いの中で、目標には程遠いものとなったのかも知れません。

しかし、この激動の一年、偏に、ご利用者の『笑顔』に支えられ、職員の『使命感』、そして周りの皆様の心温かい『支援』によって乗り越えられてきたと思っています。

2. 経過と取り組み

1) 原発事故直後の中で

① 避難か存続か

東日本大震災・原発事故問題からの出発でした。地震の被害は軽く済みましたが、放射能汚染、被ばくからの「避難」か「存続」かと云う大きな問題を抱えました。

「避難」を選択した場合、まず、移動中に起こってしまう生命のリスク、環境変化に伴う認知症状の進行、家族との遠距離等による精神的不安等、様々なリスクを抱えてしまうこと。

「存続」を選択した場合、全村民避難となった地域で、ご利用者や職員の安全は確保されるのか、また、放射線積算量がどの程度となるのか、職員が避難先からの遠距離通勤となるため負担はいか程か、家族がバラバラとなり子育て問題や風評被害等から、勤務継続が可能か。

然しながら、介護職員として「ご利用者の生活を守りたい」「リスクを最小限にしたい」との強い思いがあり、今、直面している問題との葛藤でした。

目に見えないものとの戦いのなかで、「避難」となった時、ご利用者はどうになってしまうのか、また、「存続」となればどれだけの職員が勤務継続できるか等、職員一人ひとりが決断していかなければならない状況でした。

この状況を感じ取ったご利用者の中には「俺たちを置いていかないでな」「死ぬまでここで世話になります」と話される方もおり、より一層、職員は困惑しながら業務についていました。

② 方針が決まる

「避難」か「存続」かと云う落ち着いた中でケアを行っていましたが、5月17日、ホーム存続の方針が決まり、腰を据えてケアを行える状況となりました。

しかし、現実には、今まで行ってきたユニットケアを行える状況にはなく、事故前でも人員に満ちてはいなかったものの、事故後、さらに退職者が増え、6月末には、せせらぎの家を閉鎖する方向となりました。

そこでもまた、介護職員としての葛藤がありました。

ユニットケアを継続するには、職員数の問題があり、従来のような流れ作業に変更すれば、人員のやりくりはでき、このままご利用者を移動させなくとも済む。ユ

ニットケアを中止し、人員確保ができるまで従来型「流れ作業」業務に戻そうかと、臨時家長会議を持ち検討する。

その時、誰もが今のケアの質は落としたいくない。ご利用者に迷惑をかけたくないと判断で、苦肉の策として、ご利用者とご家族の了承を得、6月30日に北棟（せせらぎ）のご利用者を従来型のハードを持っている東棟に移動して頂きました。この時も、手薄のなかで如何に質を落とさずに業務を行うかが課題となりました。

この状況の中で、ホーム介護職員5名の退職があった。当然、他の職員から更なる不安の声が続いた。

その後も、退職希望者は続き、平成23年4月に59人いた介護職員は、平成24年3月31日で43人となった。新採用者を迎えることは、この状況下に於いては困難なことであり、3名のみの採用でした。

③ 職員の意識と取り組み

不安のまま勤務となっている職員の意思確認や意識付となったのは、ご利用者の「笑顔」は勿論ですが、月1回定例の職員会議も大きな役割を果たしたと思っています。

職員会議の時間を17:00～の1時間30分とし通勤の負担を軽減する一方、職員全体が意識を高めていくためには、勤務者以外は必ず全員出席とした。

上半期は、ホーム存続についての取り組みについてが中心となっていたが、下半期は、各家の取り組みや、なんでも勉強会を行うことで、職員の意識や知識向上に繋がっていったと思われる。今年は各委員会が動けなかったため、職員会議での情報交換や勉強会は貴重な時間となりました。

2) 各会議の開催状況

① 職員会議

年月日	議 題 ・ 内 容
H23.5.9	ホーム全体会（ホーム避難と存続について）
5.17	ホーム臨時職員会議（ホーム存続について）
5.26	各家の取り組み、厨房会議報告
6.27	各家の取り組み、厨房会議報告、救急勉強会
7.25	各家の取り組み、厨房会議報告
8.25	各家の取り組み、厨房会議報告、ホームミニ夏祭りについて
9.29	各家の取り組み、厨房会議報告 なんでも勉強会（介護～職員の心構え、認知症を理解する）
10.27	各家の取り組み、厨房会議報告 なんでも勉強会（医務～冬に流行する感染症）（介護～リスクマネジメント） 研修報告（4年未満介護職員研修）避難訓練マニュアルについて
11.24	各家の取り組み厨房会議報告、なんでも勉強会（介護～認知症を知る） 研修報告（コーチングの基本と実践）
12.21	各家の取り組み、厨房会議報告 なんでも勉強会（医務～ノロウィルス）（介護～褥瘡予防）
H24.1.27	各家の取り組み、厨房会議報告、なんでも勉強会（医務～逆流性食道炎） （「Youメッセージ」と「Iメッセージ」）
2.22	各家の取り組み、厨房会議報告
3.29	各家の取り組み、厨房会議報告、なんでも勉強会（医務～健康サポート・メンタルヘルスケア）（介護～一年を振り返って）

② 家長会議

各家（ユニット）の家長が、例年ですと職員育成に視点をおき、自分たちで学習の場を設け、介護技術や接遇、業務等について話し合いの場としてきましたが、今年は、業務・勤務体制の見直しとなってしまいました。直面した問題に、現場レベルで話し合う事は具体的であり、気持ちが折れそうになった職員への励ましの時間でもありました。

開催日	内 容
H23.4. 8	当面の介護業務と勤務体制について、故障箇所等の確認と利用について
5.10	福祉会存続への業務について、勤務体制の変更について、生活環境について
8. 2	業務の見直しについて、ミニ夏祭りについて
9. 7	線量測定について、敬老会について
10. 7	行事について、各棟の業務見直しについて
11.14	年末年始の行事について、研修報告
H24.1.20	2～3月の行事について、H24年度の方針と事業計画について 紙おむつ使用について、除染について
2.20	3月の勤務体制について、職員募集について、H23年度の事業報告について
3.26	家族説明会について、新年度の計画（委員会再開）について、北棟閉鎖について

3) 利用者の生活を支える

① 生活環境の状況

日々のケアにおいて、淡々と業務をこなしてきた訳ではなく、少ない職員数ながらも、個々の寄り添ったケアに努めてきました。

当初、マスメディアの取材や報道の影響、外出の制限、窓さえ開けることができない環境に於いて、ご利用者の体調の変化や認知症状が著しく変化してしまい、食事量の低下や排泄コントロールがつかない、夜眠れずにコール対応者の増、自宅へ帰りたい等に対し、そのケアに悩みました。

② 生活環境を整える

そこで、ご利用者の生活を守るため、屋内でのマスメディアの取材を断り、普段通りのケアが行える環境を整えることで、一時でも、ご利用者と職員が現状を忘れ、楽しめる時間づくりから始めました。

③ 行事の再開

塞ぎ込んでいるご利用者の気分転換にと、3台のリフト車を活用し大倉へ桜の花見ドライブに出掛けました。準備段階では、外出することの罪悪感や不安もありましたが、ご利用者の喜びの声、何とも言えない笑顔を見た時には、出掛けて本当に良かったと感じました。

毎年、皆が楽しみにしているホーム夏まつりの開催に於いても、世間が避難となっているこの時期に実施して良いのだろうか、反面、ご利用者のことを考えれば、このような問題を負わせてはいけないのではないかと思い、室内でご利用者と職員だけで行うミニ夏まつりを実施。やるからにはミニとはいえ、今までと変わらぬ内容で行いたいと、職員は勿論、ご利用者も浴衣や仮装衣装に着替え、雰囲気づくりに

努め、模擬店やフラダンス等の出し物も自前で行いました。少ない人数で、事前準備から当日とハードではありましたが、大変との言葉を出さず、楽しんでできたこ

とは、今までとは一味違った、記憶に残る夏まつりではなかったかなと思います。ここでも、職員一人ひとりのマンパワーを感じる事ができました。

ホーム敬老会では、昨年まで家族と一緒に祝いをしていましたが、避難区域となっていることから、今年は家族への案内を遠慮し、職員と共に開催することになりました。この時も、職員一人ひとりが、ご利用者を敬う心を大切にしたいとの想いで、ご利用者の敬老会出席のための衣服着替えや、お祝いの出し物の準備や仮装、厨房からは祝膳（ちらし寿司等）を提供することで、いつも変らぬ敬老会を開きお祝いをする事ができました。

外食ドライブは、原町区が避難解除区域となったこともあり、「出掛けたい」「外の風にあたらせてあげよう」との思いで計画しました。やはり、外出となると職員数が必要となります。休日に当たる職員から、一緒に行けるとの声が上がり実現する事ができました。また、外食できるご利用者にとっては、現状を把握されている方が多く、複雑な心境で避難となった景色を眺めながらの出発でした。しかし、ショッピングセンターでの食事では、好きなラーメンやうどんを食べられ満面の笑みでした。

以上のことから分かるように、現在の少人数で行事を開催すると云うことは、難しい面ばかりでした。休日の職員に手伝って頂くことは大歓迎ですが、その後の勤務に影響しないとも限りませんし、ある程度、出勤者で行事等を行えたことは、同じ目的を持った職員だから協力し合え、チームワークを大切に開催できたと感じました。

開催日	行 事	内 容	参加者
H23.4.24	花見ドライブ	大倉方面にリフト車3台で、午前、午後に分け、花見ドライブ。桜の満開の道を車窓から複雑な気持ちで眺めてきました。	39名
7. 7	七夕昼食会	北棟ホールにて、流しそうめんの昼食会を行った。	20名
8.28	ホームミニ夏まつり	東棟・西棟ホールにて、フラダンス等の出し物や、模擬店の焼きそば等にてお祭り気分を味わいました。	全員
9.18	ホーム敬老会	東・西棟に分かれ、出し物やカラオケで敬老祝いを喜び合いました。	全員
10.12	外食ドライブ	原町区が避難解除区域になったことで、ショッピングモールに外食、買い物の希望者と外出してきました。	11名
10.13	〃	久々の外出・外食とあって、皆さん嬉しそうにラーメンやうどんを召しあがっていました。	13名
12.23	クリスマス	例年ですと、日赤奉仕団から手作りケーキのプレゼントがあったのですが、今年は職員で20個のケーキを作り、クリスマスティータイムを行いました。	全員
12.28	餅つき	年の瀬のイベント、餅つき大会を行いました。臼と杵でつく餅は、昔を懐かしみ、ご利用者の手によって形よく丸められ鏡餅や、あんこ餅・じゅうねん餅・汁餅として食べました。	全員
H24.1.2	新年会	新年の初顔合わせ。各棟ホールに分かれ、新年のあいさつをし昼食会を行いました。	全員
1.15	だんごさし	「田植えは出来ないけどな。」と言いながら、農作業の手始め作業とし、団子さしをしました。	全員
2. 3	豆まき	今年、職員の年女年男が、袴を着て、各ユニットに豆まきをしながら無病息災を祈願しながら巡って行きました。	全員
3. 4	ひな祭り会	各棟にて、海苔巻、ちらしずし等を一緒に作り、ひなまつり昼食会を行いました。	全員

④ 看取り

なにより家族と一緒に居られ、なじみの職員のケア、そして、住み慣れた自分の部屋で大切な時間を送れたことは、避難せず、いいたてホームに居れたからこそだと思います。

全職員は「ケアで後悔したくない」と、その人らしい最期を迎えて頂きたいとの想いだけでした。

家族の面会が少なくなってしまったご利用者へ、「寂しい想いはさせたくない」と呼吸が弱くなっていくなか、手を握り、好きだった曲を流し、静かな時間を過ごしたこともありました。また、終末ステージにきても、なお、可能性を忘れずケアにあたってきました。そして、最期を迎え、ホームでのお別れ会の時、微笑まれている顔が、私たちに力を下さっていました。「あの時にあれをしてあげたかった」等の心残りは堪えません。これからも、最期の時間にかかわれることに感謝し、大切にしていきたいと思います。

2. 一年を振り返って

今年度は、ごく普通の当たり前の生活をする事ができない、とても困難な環境となっていました。

今まで築き上げてきた「いいたてホーム」のケアを維持することの難しさ、日頃の「あたりまえの時間」が如何に大切であり大事なものだっのかを、思い知らされた一年間となりました。

しかし、大変な中にも、職員のご利用者を想う気持ち、マンパワーの強さ、想いが一つになった時の行動力、そして忍耐力と。それらがある限り、これからも、この職員で、このいいたてホームで、ご利用者と共に過ごしていきたいと思います。

最後に、県内外を問わず、応援や支援をして下さった方々に心から御礼を申し上げます。そして、今いる全職員に「ありがとう」との言葉だけでなく心から誇りに思います。

1. 生活全般について

今まで通り普通にご利用者に寄り添い、笑ったり、泣いたり、何か困った事があったら皆で集まって頭をつき合わせ、知恵をしぼったり、こんな平凡な生活がこれからも何時までも、何時までも続くと思っていました。あの3月11日が来るまでは。

当時は原発事故に伴う放射性物質の拡散などと言う事は、頭の片隅にもなく余震によるご利用者の動揺を軽減することで精一杯でした。

水を確保するため、あらゆる器を持って水を汲み、夜間は懐中電灯を持っての排泄介助や巡回など、ご利用者の方もさぞ不安であったことと思いますが、私達も今まで経験したことのない状況下で、心が折れそうになったこともありました。しかし、家目標でもある『ご利用者に寄り添い、日々の生活を大切に、且つ安全に生活できる居場所作りをする』を、もう一度確認しながら、介護のプロとして、今やれることを実践しようとして皆で気持ちを一つにしここまでやってきました。

今まで通りの行事を行うことはできませんでしたが、手足を動かしてのレクリエーションやカラオケ等、できるだけことは実施してきましたと自負しています。また、ご利用者にもできるだけ参加して頂くことにより、カラオケでは回数を重ねる度、大きな声で歌われるようになったり、覚えのある歌を口ずさむ方も増えてきたように思います。

ご利用者の笑顔や元気な歌声は、私達に元気を与えてくれます。また、他の家の方との交流も気分転換になっているようです。これからも大切にしていきたいと思います。

家料理では煮込みうどんや大根がいっぱい入ったおでんを作り食べて頂きました。素朴で手の込んだ料理ではないのですが、皆さん「うまいなあ〜」と食べて頂き、これからも口にあった物を作っていきたいと思います。

ご利用者の中には体調を崩され3名の方が入院されていましたが、今は退院され、皆さんと一緒に過ごされています。

のどかなの家では、ご利用者さん同士の会話がが多く、聞いている私達もつい顔がほころんでしまいます。これからも信頼関係を大切にし、ここ（いいたてホーム）で暮らして良かったと思って頂けるような環境作りに頑張っていきたいと思っています。

2. 食事について

- より美味しく、安全に食事を摂って頂けるように食事形態の見直しや、その方に合った食事量を提供できました。
- 今までのように季節物（山菜）等を、家内料理として作ることができませんでしたが、煮込みうどんや大根をいっぱい入れたおでん等を作り、家庭的な雰囲気ですべて頂けたかなと思います。
- 見た目にも食欲をそそるよう、器や盛り付けの工夫をしてきました。
- 水分摂取にも心掛け、熱いお茶の好きな方には入れたてのお茶を飲んで頂きました。

3. 排泄について

- 自然排便が困難な方が多く、食物繊維やセンナ茶等を服用して頂き、便秘による不快

感の軽減に努めてきました。

- 随時パットの見直しを行い、他の家の介護職員が応援に入ってもすぐに分かるよう、使用するパット一覧表を作成し、その方に合ったパットを提供してきました。
- トイレで排泄できる方については、負担をかけないように、2人対応で介助を行なってきました。
- パット交換時は、必ずその部分を洗浄し皮膚の弱い方にはワセリンを塗布し、皮膚トラブルを防いできました。
- 使用後のパットについては、尿臭等がフロア等に広がらないよう、新聞紙で包んだり、消臭剤等を使用し、不快感の緩和に努めてきました。

4. 入浴について

- 入浴日の調節をするなど、ゆったり入れるように随時話し合ってきました。
- 入浴後、保湿クリーム等を塗布し皮膚トラブル防止に努めてきました。
- 立ち上がりが不安定な方に対しては、安心して入浴して頂けるよう、細やかな声掛けをすると共に2人対応で介助を行なってきました。
- 衣類に関しては、毎回同じ物を着ていないか確認し、対応してきました。

5. 行事の取り組みについて

- 例年通りの行事を行なうことはできませんでしたが、介護職員が作ったケーキで誕生会を行ったり、南相馬市のモールへドライブを兼ねた食事会や、毎週行なわれるカラオケ大会、クリスマス会、餅つき等、今ホームでできる限りの行事を提供し、皆さんに参加して頂きました。

モールで食事会をした時は、スープまで全部すすり完食し、満面の笑みで空のどんぶりを見せてくれたこと、カラオケ大会では回数を重ねる度に大きな歌声で唄えるようになったり、クリスマス会や餅つき大会では、大ホールでなじみの方と楽しいおしゃべりをしたり、少しでも皆さんに楽しんで頂こうと介護職員が協力し行ってきたことは、無駄ではなかったと思いました。

6. 一年を振り返って

- 一言では言い表せない不安と動揺、苛立ちの複雑な心境の一年だったような気がします。とりわけ、今までしてあげられていたことができない（花見、外気浴、散策等）ことに心がめいってしまったこともありました。

五月晴れの天気の良い日には、窓やドアを全開にしたい衝動にかられた時もあります。しかし、現状を見据え、今できること、今やらなければならないこと、今まで行ってきたことに、代わる物を提供することが大切だと思うようになりました。

ご利用者さんと一緒に昔の歌を口ずさむこと、肩を並べて新聞紙折りや洗濯物を畳むこと等、また、遠距離からの通勤も「今朝来たのか。泊まったのか。」とニコニコと話し掛けてくるご利用者さんの笑顔が今の私達を支えてくれた一年でした。

最後に、沢山のの人に支えられ、温かい心を頂いたことに感謝したいと思います。

1. 生活全般について

原発事故の放射線量の問題により、窓を開けることもできず、外気に触れる事もできず精神的にもかなりの負担となりました。

原発事故の影響か、ご家族の面会の回数も、なごみの家では以前より少なくなったように思われ、このようなことからご利用者さんも、何らかのストレスを感じていたように見えました。中には、自己主張の強い方も多く、トラブルにならないよう、常に声掛けを行い関わって来ましたが、介護職員も同様に減り、避難先の生活環境に慣れず、ストレスに感じることも多々あり悩むこともありましたが、然しながら、介護職員はプロであることを見つめ直すことで、今までケアに努めることができましたと思います。

介護の原点である、一人ひとりの生活パターンを見直し、今、この人に何が必要なのか、生活を楽しみにするためには何をすれば良いのかを考え、理解し、少しずつ支援することで、徐々にではありますが出来ることが増えたように思います。楽しみを持つことで、生活の幅が増え、意欲が湧き、表情も明るくなり、ご利用者同士のコミュニケーションも多く見られるようになりました。

しかし、居室で過ごされている方の工夫が遅れ、設えだけでも工夫できるようにして行きたいと思います。

レクリエーションやカラオケは、皆さんが楽しみにしており、一生懸命身体を動かしたり、元気に口ずさんでいたようです。また、今まで皆さんの前で歌を歌うことなどなかった方も、今ではカラオケの日をととても楽しみにされています。共通の楽しみを持つことでご利用者同士の仲も深まったように見受けられました。

職員同士の情報交換や、他職種・ボランティアの方々の協力があったことで、充実した日々のケアができたように思います。

2. 食事について

メニューの中で、本人が食べたくても食べられない物も出て、悲しい思いをすることもありましたが、看護師・栄養士等と相談し、少しでも本人の希望に添い美味しく食べて頂くため、個々の状態に合わせた食事形態を提供することで今は喜んで頂いています。

食事による体調管理はとても大切なことであり、食事量も希望に添って提供し満足して頂きましたが、体重の増加が見られるため食事量の検討が必要かと感じました。また、食事の姿勢なども見直し、安全に食べて頂くための工夫もしてきました。

3. 排泄について

窓を閉めきっているため、排泄物の臭いがこもり易いので、使用済みのパットを新聞紙に包み、ひと手間かけることで臭いが広がらないよう努めてきました。

随時、個々に合ったパットの見直しや排泄交換時間を見直したことで、皮膚トラブルもなく過ごすことができました。

排便のコントロールも看護職員との連携でスムーズにできるようになりました。

4. 入浴について

状態に合わせた入浴を、その都度、各家と協力し見直すことで、安全・安楽に入浴して頂くことができました。

入浴は、個々とのコミュニケーションが多く図れる場面でもあり、自分の家のお風呂にゆったりと入ることで楽しい入浴ができたと思います。また、皆さんの協力で、入浴後の保湿にも務めることができました。

5. 行事の取り組みについて

誕生会では、ご家族に連絡を取り、なるべく参加して頂き、一緒にお祝いができるよう努めてきました。同じ家内のご利用者さんからのお祝いの一言は皆さんにとって「一番のお祝い」だと思わせられる場面でもありました。時には涙を流しながらお礼の言葉を言われたり、いつもより緊張していたり、照れていたたり「いくつになっても誕生日は特別な日」だと感じました。だからこそ、ケーキの提供だけではなく、本人の好きな物を提供し、また、個々に合った誕生会を、心を込め、楽しく、思い出に残るように努めてきました。

人員不足や屋外が使えないなどの規制がある中で、できる限りのことを考え、工夫して行うことができ、皆さんに楽しんで頂けたように思います。これからも、皆で協力し合い、少しでも喜んで頂けるような催しを考えて行ければ良いと思いました。

6. 一年を振り返って

原発事故後、職員の減により、職員の異動やご利用者さんの居室移動などで、色々と困惑したと思います。職員も慣れない環境の中での生活や通勤から、不安を抱えながらの日々が続き、自分の感情をコントロールすることが難しい状況でした。しかし、こんな時だからこそ考えさせられたのは、介護職員としての豊かな資質を持ちケアをすることの大切さ、職員同士のチームワークがとても重要だと感じました。

この1年で、1名のご利用者さんとお別れがありました。12月末に入院されたまま入院先で永眠されました。皆さんにとっても愛された方で、ホームでお別れができなかったことがとても残念に思います。「日々悔いのないケア」ができたのか、そして「我慢させたことはなかったのか」など考えさせられました。

これからも、この環境の生活が続きます。時間の使い方などを創意工夫し、生活に変化を作りだし、安心して生活して頂けるようにして行きたいと思います。今後も職員同士連携を密にし、お互いに思いやりを持って共に生活して行きたいと思います。

また、多くの方の支援やボランティアに深く感謝申し上げたいと思います。

1. 生活全般について

原発事故により、生活環境が一変してしまいました。放射性物質による汚染のため屋外での活動制限もあり、言葉にこそ出されませんが、精神的なストレスを抱え毎日の生活を送られていたのではないかと感じました。

そうした状況の中でも、次年度は少しでも気分転換ができるような活動を工夫をして行きたいと思います。

2. 食事について

原発事故後、食材も不足し、皆さんには思うような食事を提供できなかったように思います。しかし、時間の経過とともに品不足は解消し、普段通りの食事を提供できるようになりました。

また、家料理も原発事故による放射性物質の問題により、旬の食材を使つての料理作りもできなくなりとても残念に思います。

しかし、時間の経過と共に食材が整い、状態に応じた食形態を考えながら、食事提供を行ってきた結果、むせりなども以前より少なくなり、ゆっくりと落ち着いた雰囲気の中で食事を摂って頂くことができたと思います。

次年度も継続して美味しく食事を摂って頂けるよう努めていきたいと思っています。

3. 排泄について

排泄時間をこまめにチェックすることで、尿量に合ったパットを使用することができました。今後は寝たきりの方も多くなったため、汚染したパットやオムツ使用による皮膚トラブル防止に努め、また、漏れないパットの当て方なども工夫していきたいと思います。

4. 入浴について

体調や状態をしっかりと把握しながら、一人ひとりのニーズに沿った入浴形態を考え、気持ちよく入浴して頂けるよう努めてきました。

(洗身タオルを布に変え皮膚へのダメージを減らし保湿クリームを塗ることで皮膚トラブル防止に努めてきました。)

5. 行事の取り組みについて

屋外での行事や活動が制限されたため、規模を縮小した形で夏祭り等の行事を行ってきましたが、工夫した行事を提供することで、ご利用者も職員も楽しく過ごせたように思います。今後、職員も少ないため、工夫しながらこのような形式で行事活動を展開したいと思います。

(週一回の池田先生によるカラオケは、とても楽しみにしているようですので、無理のない範囲で今後も継続して欲しいと思います。)

6. 一年を振り返って

原発事故による放射線量等の問題もあり、屋外への外出が制限されたため、太陽の下での花見や外気浴、季節折々の行事や活動ができなくなりました。

窓を開け空気を入れ替えるなど、何気なく日常あたり前に行っていたことが、突然できなくなってしまうと云うことが、これほど苦痛なものなのかと、大きな憤りを感じながら日々を過ごしてきた1年だったような気がします。また、皆さん一人ひとりから原発事故に対する不満についての声を直接聞くことはなかったものの、精神的な不安や負担からか体調を崩される方も多かったように思います。

そのような状況の中、ご利用者が最期の日を迎えたその日まで、ホームスタッフ全員が連携し、協力をしながら最後まで精一杯のケアをし、見送りまで出来たことに胸を張って“頑張りました。”と大きな声で言いたいと思います。

最後に、多くの顔も名前も知らない方々からの心のこもった温かい支援に心から感謝したいと思います。

1. 生活全般について

家目標には「精神面や身体面を深く理解し、一人ひとりのニーズを把握することで日々のケアに繋げ、穏やかに生活して頂けるように努める」と掲げていましたが、原発事故の影響により、不安は勿論のことですが、職員の退職や異動も不定期に繰り返され、落ち着く暇もなく1年が過ぎてしまいました。そのことで、ご利用者に与えてしまった不安とストレスは計り知れないものと感じています。

些細なことで機嫌を損ねてしまったり、帰宅願望が強くなってしまったり、職員が変わるたびに動揺されたり、食事を全く口にしなくなってしまう方や、不可解な皮下出血を繰り返してしまう等、全てを原発事故によるものとしてしまう訳にも行かないこともあったように感じます。

そのような状況の中でも、唯一良かったと実感できるのは、「お一人おひとりの大切な日」である誕生日をお祝いすることができたことです。お祝いに駆けつけて下さったご家族と、ささやかでも喜んで頂けたらと思う職員の思いやりや真心が感じられることができたことは、ケアを勧めていく中で大きな支えとなっていたことと思います。

また、定期的なレクリエーションへの参加、普段の何気ない時間の会話、介護職員の手伝いとして新聞やおしぼり畳み、時には一緒にティータイムを過ごしたりと、少しずつご利用者さんにとっての顔なじみの職員として感じて頂くことができたのかも知れませんが、そして徐々にはあっても、頼られる介護職員になることで、自らの遣り甲斐や励みをご利用者から頂いていたのだと思います。

2. 食事・入浴・排泄について

① 食事

- ・ 個々に合った食事形態・量・嗜好を把握して美味しく楽しい食事を摂って頂くことを目標としてきた。口から食べることの大切さを含め、無理強いを避け、食べたい時に、(食べれる時に)食べたい分だけ、(食べれる量を)を把握し、体調や栄養面を考慮しながら看護師・栄養士に相談しながらケアに繋げることができました。
- ・ ご利用者と一緒に旬の食材を使って調理し、季節感を味わって頂きたかったが、旬の食材の調達や、職員間の連絡調整などの計画性が欠けており実行できなかったのが現状でした。
- ・ 誕生会に於いては、職員の工夫を凝らしたケーキ作りや飾りつけで、とても喜んで頂くことができたと思います。

② 入浴

ゆとりの家では、東棟で唯一個別浴が設置してあることで、ご利用者にも喜ばれています。他の方に左右されることなくご自分のペースで入浴が行え、何よりプライバシーが確保され、マンツーマンの対応で安心して入浴して頂けることが一番のメリットのようです。東棟職員の協力があってこそ継続できることだと感じています。

③ 排泄

トイレでの排泄を基本として、プライバシーを守りながら支援を行ってきましたが、トイレのドアが車椅子で閉まらず、介助中に半開きになってしまったり、使用中のパットを無造作に車椅子に置いてしまう等、配慮が足りなかったと感じました。消臭対策については、パットを1枚1枚新聞紙に包んで処理を行い、失禁の際は必ず清拭対応を行って来ました。排便時の対応も統一した処理を行っていたと思います。また、

看護職員との連携により個人の排泄パターンを把握し、負担にならないような排便を促せるよう心掛けてきました。

プライバシーを守るためには介護職員の心配りが重要だと思います。今後も排泄物の処理方法・陰部洗浄・消臭対策を行い、継続して行く事で習慣化されて行くことを期待しています。また、私達介護職員の声かけに対しては更なる気遣いが必要だと感じています。

3. 家内のユニットの取り組みについて

- テーブルの配置やテーブル席に対し、一人ひとりの拘りが強く、配置換えを行うことは敢えて避け様子を見てきました。テレビを特定のご利用者以外は観ることができない状態でしたが、2箇所テレビを設置し、コタツを設けることで、また違った空間を創ることができたようで、ご利用者も満足していました。
- テーブルクロスを使用することで、気持ちまで明るくなったようだとの好評でした。しかし、一方では無意識にテーブルクロスを引っ張る・丸める等の行為が見られることもあり、検討しなければならないようです。
- 季節の草花をプランターに植えることで、気持ちを和やかにし、水遣り等に気遣って下さる光景もありました。

4. 行事等の取り組みについて

- 職員数が減少していく中、少ないながらも協力し合って「ミニ夏祭り」「ミニ敬老会」「ラーメンツアー」等を行うことができました。
- 誕生会も3月に4名の合同誕生会を終えると、ゆとりのご利用者全員の大切な日をお祝いすることができます。ご家族もお祝いに来て下さり、和やかな雰囲気の中で楽しい一時を過ごして頂けることができました。何らかの形で気分転換を図ることや、ホームならではの行事に参加することで「楽しかった。」との声を聞くこともできました。不安が解消されない日々の生活の中でも、徐々に生活意欲を高めるためには重要なことだと感じました。

5. 一年を振り返って

原発事故から1年が過ぎますが、未だにその傷跡に悩まされている現状です。しかし、ご利用者がいいだてホームでの生活を継続できるということは、今になって考えれば不幸中の幸いとでも言うべきなのかもしれません。

ホーム存続の決定により、また違った意味でご利用者も職員も不安を抱えながらの生活を強いられ、時には不満や予期しない行動をとり、ストレスの塊になっていたのは隠しようの無い事実でした。

あの時、あの時点で全村避難を決行したとしたら、漸く戻りつつあるご利用者の笑顔は、まだまだ先の先で、もしかしたら笑顔を失ったままになっていたかも知れません。

人それぞれ不平不満を抱えていることも確かですが、大切にしなければならないのは、今いるご利用者さんの笑顔を励みとして、今いるご利用者さんの困り事を聞いてあげられる唯一の職員として、一緒に乗り切り前に進んで行こうとする気持ちではないかと感じています。

また、県内外からの心温かい支援やボランティアの方々を支えられ、ここまで頑張ってくれたのも事実ですし、厚く御礼を申し上げたいと思います。

1. 生活全般について

原発事故直後は、思うように生活ができませんでしたが、徐々に落ち着かれ個々のペースで生活されています。

制限された環境の中での生活のため、ストレスに感じる事が心配されましたが、日々の生活の中で、お手伝いをして下さる方、他のご利用者の動向を伝えて下さる方など、できることは行って頂くことにより、上手くコミュニケーションがとれ、多くの笑顔が見られ良い雰囲気の中で生活ができていたと思います。

2月3月と退居者が続き、寂しい心持ですが、皆さんは、もうすぐ来る春を待っているようでした。

2. 食事について

原発事故直後は、不便をお掛けいたしました。徐々に通常に戻り、個々の状態に合わせた食事形態に戻すことで、落ち着いた雰囲気の中で食事を摂ることができたように思います。

また、経管栄養のご利用者のケアは、栄養状態・身体状態の把握に努め、栄養士・看護職員・スタッフとの連携を密にし行ってきました。

3. 排泄について

排泄パターンをつかむことで、スムーズなトイレ介助に繋げることができました。また、其々の体調や体質に合わせ、下剤の服用やセンナ茶、食物繊維等で排便を促すことができました。

肌トラブルを防ぐため・ボクサーパンツを利用することで、未然に防ぐことができたり、トイレ介助も安易にできるようになりました。

4. 入浴について

個々に合った入浴方法を検討・工夫することで、負担を少なく入浴することができていました。また、二人対応での個浴入浴を勧めることで、ゆっくり浴槽内で温まることができ、ご利用者は勿論のことご家族の方にも満足して頂けています。

衛生・安全面においても、浴室内・脱衣所の整理整頓を心掛け、動きやすい空間作りに努め、楽しく寛げる入浴提供ができていたと思います。

5. 行事の取り組みについて

外食、外出等は思うようにできませんでしたが、毎月行っている家料理で気分転換を図ってきました。

レクリエーション等への参加については、参加者が少ないので、楽しく参加できる工夫を考えていきたいと思っています。

環境の整備については、居室、フロア等の設えも随時変更してきたことにより、気持ち良い環境づくりができていたように思います。

今後も、ご家族の方とのコミュニケーションを深めるため、誕生会や家料理、レクリエーションへの参加時の写真、記録をこまめに残すことを大事にしていきたいと思えます。

6. 一年を振り返って

困難な状況においても、できる限りのケアを提供することができていたと思えますが、原発事故に伴う環境変化は、ご利用者にとって不安やストレス等が溜まり、口にも出されなかったものの精神面への影響は相当のものがあつたのではと推測されました。

様々な環境変化がある中で、色々な意見等があると思えますが、今を大切に今後も頑張っていきたいと思えます。

1. 生活全般について

東日本大震災や原発事故から一年が過ぎました。思い起こせば一生に一度の激動の一年ではなかったかと思えます。何の不自由もない生活から一変して困難な生活を強いられました。

幾度となく突然の地震に大声をだしたり・恐怖感を訴えることが時折あり、笑顔も感じ取れないご利用者もおりました。職員の「大丈夫だよ」と言う声掛けに安心されたのか胸をなでおろす方もおりました。また、震災の影響でフロアの照明が落ちそうになり、日常生活が、居室からホールへ、ホールから居室へと移動が繰り返され、ストレスや不安もピークだったのではないかと感じました。そのような中でも、無事過ごすことができたことは何よりだったと思えます。

フロアの照明の修繕も終わり、自分達のフロアに戻れ、ゆっくり過ごすことができるようになった頃、計画的避難区域に指定されたことを知り、ご利用者の家族や職員も戸惑いを隠せない思いでいっぱいでした。

平常通りと思っても、「なんでそうなったの」と聞かれ、とても苦慮した思いがあります。それに加え、家族の方との別れを感じ取ったことが、更に不安にさせてしまったのではないかと思います。

天気の良い日は「あ、今日は天気良いから外で外気浴をしようか、畑仕事でもしようか」と思い、出勤しても、現状は換気もできずに「どうして」と思うことが多々あり憤りさえ感じてしまいました。それ以上に、ご利用者の暴言もあり、いつもと違う日常生活にストレスが溜まっているんだなと感じる日が多々あったように思います。

ご利用者も、そのご家族も、職員も、現状の生活に漸く落ち着き、慣れてきた頃、ホームからミニ夏祭りをやろうと突然の提案。何となくホッとしたような気分になり、ご利用者からも笑顔がこぼれるほどでした。やがてご利用者も自分のペースを取り戻し生活できるようになり、ご家族の面会や他のご利用者へ気遣うことも出てきたことから、コミュニケーションを活発にさせるため、ミニパブリックスペースを作りました。結果、ご家族の方もゆっくりと過ごして頂けるようになりました。

10月に職員の異動がありました。何の戸惑いもなく過ごして頂くことができました。

ご家族の方への手紙も開始され、久々に写真を撮りましたが、今年度はアルバム作成を行うことができませんでした。また、居室で過ごす方には多くの声掛けを行うことでアイコンタクトやうなずきがあり、その表情が癒しとなり私たちを和ませてくれました。

日々変わっていく様子を目の当たりにしていることで、スタッフが一丸となり、より細やかなケアを提供し、体調の変化にも看護職員との連携を密にし早期発見や解決することができたことはとても嬉しく思います。更に、個人に対しても同様にケアと連携が良くできていたと思えます。

2. 食事について

- 震災後、ホールと居室の往復で、食事時にゆっくりと会話することができず、心の動

揺もあり落ち着いて楽しく食事することができなかった。

- 食べることが大好きな方が多いため、食事制限や配膳に気遣い、美味しく食べて頂くために食事形態の見直しを随時行ってきたことは、美味しく食べるための改善に繋がっていたと思います。
- 家料理は一度しかできませんでしたが、楽しく会話しながら食べている所を見たら、もっとしてあげられれば良かったと思いました。
- 震災で畑づくりができず、季節の旬の食材を提供することができませんでしたが、支援物資を利用した普段と違うメニューを提供することができ、こういった食事も楽しいものもありました。

3. 排泄について

- 排泄パターンを把握し、状況に合ったパットの使用と変更に努めたことにより、排泄をコントロールすることができました。また、居室内の消臭対策に心掛けることも大切にしてきました。反面、トイレ介助時の声掛けとプライバシーの配慮に少し欠けていたように思え、次年度は反省を踏まえ、声掛け等にも力を入れて行きたいと思います。

4. 入浴について

- 身体や健康状態に合った入浴方法を検討し、即、個々に合わせた方法を実践してきたことで、安心・安全な入浴をして頂くことができたと思います。また、入浴剤を使用することで、ゆったりとリラックスして入浴できる時間を提供できたと思います。
- いつも入浴が好きで長湯だった方が震災後浴槽に入ろうとせず、シャワーのみとなっていたが、声かけと優しく手で支えることで安心して入るようになりました。

5. 行事の取り組みについて

- 時間ができた時にレクリエーションを行うことで気分転換に繋がったと思います。
- 昼食を兼ねたドライブに8名のご利用者が参加され、震災後のストレスも発散され楽しく過ごすことができ満面の笑みがありました。
- 誕生会では、ご家族より心のこもった手作りのプレゼントや同じご利用者からの懐かしい話等を聞きながら、一緒に楽しく過ごすことができたと思います。

6. 一年を振り返って

職員間で情報の共有化を図り、統一したケアに努めることで大きな事故もなく過ごすことができたと思います。

会話の好きな方、フロアソファで居眠りをして過ごす方、テレビを観て過ごす方、そんな日々の生活の中で、コミュニケーションをとることは難しく、一人ひとりのニーズに答えることが困難でした。今後、ぬくもりの家らしい日常生活の過ごし方を考えて行きたいと思います。

反面、車いすから押し車に移行できた方、自主的に歩行訓練へ取り組む方、其々に進歩されている方に対し、今後も継続できるよう支援していきたいと思います。

また、家族対応の通院は、唯一家族の方と一緒に居られる貴重な時間であり、戻ってきたときの「ただいまー」と言いながら、家に入ってくるご利用者の心境を考えると、本当に良かったと思ひ、今以上に沢山の声かけをして行きたいと思います。

1. 生活について

厳しい生活環境での出発でした。これまでの生活感を大切に一年間取り組んできました。職員の異動により、ご利用者の方々に過大な迷惑を掛けてしまったことと思います。

そのような状況で、1名のご利用者がお亡くなりになり「もっと私たちに甘えてくれたら」と思ったことがありました。

誕生会では、ご家族の方にケーキのトッピング等を手伝って頂いたり、手作りの誕生会ができ、とても和やかな雰囲気の中で行うことができました。

これからも、より良い家づくり、過ごしやすい生活環境を提供するため、言葉遣いから始まり、寄り添うケア、居場所作りなどに力を入れて行きたいと思います。

2. 食事について

個々に合った食事時間・形態・摂取量・その日の体調など、日々の変化に伴い、多職間で話し合いを持ってきたことから、これまで味噌汁が好きではなかった方へ、トロミを付けて提供したところ完食が多くなってきたこと、また、常に介助が必要な方も介護職員が見守る中で、自力で食べることができるようになった方の姿を見て、とても嬉しく感じました。

今年度の目標にあった家料理は、毎月行うことができず、今後の課題として取り組んで行きたいと思います。

3. 排泄について

排泄チェック表の活用、家会議等でのパットの見直し、体調変化に伴う排泄介助の変更、また不快感や負担のかからないケアに取り組んで実践してきたことで、スムーズな排泄行為に繋がっていたように思います。

消臭対策については、換気ができない状況にあるため、随時排泄物の回収や消臭剤等を使用してきました。

反省の部分としては、羞恥心に気付かず、声掛けをしたことがあり、ご利用者の気持ちを傷つけてしまったのではないかと考えています。

4. 入浴について

個々の体調や状態を見ながらの入浴介助や入浴日の変更、2人対応での安全且つ安楽な入浴に取り組んできました。

皮膚トラブル防止としては、これまで布タオルで洗身をしてきましたが、柔らかい洗身タオルに変更することで、皮膚のトラブルもなくなっています。

入浴拒否をされてきた方が、急に「お風呂に入りたい」と言ってきた時は、介護職員が驚き目を丸くさせた瞬間でした。その後3日続けて入浴したことがありました。しかし、現在は、あの言葉はどこに行ってしまったのか。これからもあの言葉が聞きたく声掛けを大切に続けて行きたいと思います。

5. 家内のユニットの取り組みについて

ハード面については、雰囲気を変えてしまうことで、不穏になってしまうのではないかと感じ、これまでと同じ環境の中で、個々の生活スタイルを大切にしながら過ごして頂きました。

ソフト面については、介護職員が業務優先になりつつあったことから、ご利用者の訴えや動き等を把握することができず、小さい怪我でもアクシデントを起こしてしまったことが反省点です。今後、ゆとりを持ちご利用者に添えるケアに心掛けて行きたいと思っています。

6. 行事等の取り組みについて

小規模ながらもホーム全体、家内での行事、ドライブを兼ねた食事会等を提供することで、ご利用者の笑顔を見ることができ良かったと思います。

生活の中でも触れましたが、誕生会では多くの家族の方がお見えになり、一緒にケーキのトッピングを行ったり、カラオケでコミュニケーションを図ったり、手作りで温かみのある楽しいひと時を過ごすことができたと思っています。

7. 一年間を振り返って

環境の変化、それに伴う職員の異動等、ご利用者に余計なストレスを与えてしまったのではないかと感じられた一年でした。そのような状況に於いても、いつもと変わりない笑顔、笑い声等、ホッとする場面も多々あり、逆に私たちが勇気を頂き『ありがとう』と言いたいです。

これまで積み重ね、歩んできたユニットでの暮らしを後退させず、これからも前に向かって進んで行きたいと思っています。

1. 生活全般について

原発事故の影響は、こもればの家にも大きな影響を及ぼしました。

今までごく普通に行っていた、外気浴・日光浴・外出・買い物・ドライブ等ができなくなったことはもとより、村全体が計画的避難区域に指定されたことから、ご家族の面会も少なくなり、知人や親戚、友達の面会もめっきり減ってしまいました。こんな時、ご利用者に、どの様に接し、不自由なく、不安等を取り除くことができるかが課題となり、幾度となくスタッフ間で考えた結果、「気付き」に力を入れて行くことにしました。

そのことが、個々に合ったケアとなり、より多くの「笑顔」を見ることができたと思っています。

※ ご利用者が、今年も村主催の文化祭に「ベスト」を出品しました。いつもは「小さい袋」を縫う方なので、大きな作品に途中嫌気をさしたようでしたが、こもればの家職員の連携により、ご本人も職員も満足する作品となりました。

2. 食事・入浴・排泄について

① 食事

- 原発の影響で、事故後、家庭菜園もできなくなり、地元の旬の山菜を使った料理は勿論、外食、バーベキューに至るまで、何も実施することができませんでしたが、暫く経ってから、徐々に家料理を再開することができました。ただ、ご利用者もこのような状況を知ってか、要望もなかなか出てこないことから「どの様なものだったら喜んで食べて頂けるか」を、会議の中で話し合い、決めてしまったことから、もっと丁寧に聞き入れれば良かったのかなとも思いました。
- 個々にあった食事時間や食事形態にすることにより「食」への楽しさを味わって頂けたと思いました。
- 皆で揃っての食前体操はなかなかできなかったもので、次年度は個々に合わせた食前体操を取り入れたいと思います。

② 排泄

- 個々に合ったパッドをすることにより、皮膚トラブルを防ぐことができました。
- 自然な排便コントロールの調整が上手くいかず、センナ茶や下剤服用が多くなったように思いますが、今後、看護職員と相談しながら対応して行きたいと思います。

③ 入浴

- 介護職員同士の声掛けにより、協力を得、負担なく入浴を楽しんで頂くことができました。
- 介護職員同士の連絡・報告により、体調の変化等を知ることができたことから、負担のかからない入浴になっていたと思います。

3. 家内のユニットの取り組みについて

ご家族とのコミュニケーションを図るため「お誕生日ケーキ」のトッピングはご家族の方に協力を得ました。

ご家族の方が、当日、参加することができない場合、介護職員がご家族の代わりとなったり、家料理を当日することによって、寂しさを味わせないように努めてきました。

4. 行事等の取り組みについて

- ホーム内の行事参加については、その日の体調を見ながら、できるだけ参加して頂くように努めてきました。
- ボランティアによる色々な催しがある時は、外部交流を図るため無理がないよう参加の有無を聞きながら勧めてきました。

5. 一年を振り返って

- 原発事故後、ご利用者も職員も恐怖と不安でいっぱい状態でした。

ご利用者は、家族に会えない、楽しみにしていたドライブにも行けない、レクリエーションも少なくなり、何をして過ごしたら良いかわからないという状況でした。

職員は、避難先での慣れない生活、長時間の通勤等で疲労・ストレスになっていたと思います。

そのような中で、大きな事故もなく、寄り添うケアができたことは、介護職員同士・看護職員等との協力や信頼関係が、事故後、より一層深いものになって行ったことに他ならないからだと思います。これからも良いチームワークを保って行きたいと思います。

- 原発が爆発し、放射能の影響で多くの若い職員等が退職し、ユニット内の職員配置も今だかつてないくらいの異動で、一年に9名の職員が関わってきました。異動した職員も慣れるまで大変だと思いましたが、ご利用者やその家族の方々はもっと不安で大変だったことと思います。

しかし、事故後半年も経つと、徐々に落ち着き始め、職員の異動もなくなり、落ち着いた雰囲気の中で生活ができてきたと思います。

1. 生活全般について

家目標であった『ご利用者一人ひとりの「思い、希望」を叶え、充実した生活を送れるようにお手伝いをする』については、原発の影響もあり、ご利用者には大きな不安やストレスを与えてしまったような状況でしたが、普通の生活に1年掛け徐々に戻すことで、大分落ち着きをみせていると思います。

誕生会においては、前年同様、ご利用者の希望するケーキ等を提供でき、喜んで頂けたことと思います。また、あるご利用者は、孫の結婚式に出席するため、髪を伸ばし、怪我をしないようにとの目標を持ち、結婚式当日まで充実した生活を送られていました。

何か1つでも目標を持つということは、生き生きと過ごされ、生活に潤いがあり良いことであると改めて感じさせられました。

また、生活の一環として、おしぼり畳みや新聞畳み等、できることはやって頂くことで役割を見出していたようにも思います。レクリエーションにおいても、週2回(水・土曜日)行い、その中で多くの笑顔を見られたことは、私達の励みともなりました。

2. 食事・入浴・排泄についての反省と報告

1) 食事について

- ・ 嗜好や状態変化に合わせ、随時食事形態を見直すことができました。
- ・ 屋内での生活を余儀なくされて来ましたが、楽しみの一つとして、家料理をご利用者と共に、実際に手で触れながら、(ラーメン・餃子・お月見団子作り・豚汁・鍋焼きうどん・そば打ち・海苔巻き・ぼた餅作り等)、できることはお手伝いして頂き、五感で感じ、作って食べることの楽しみを、少しは味わって頂けたと思います。
- ・ 今年度は、放射能のこともあり、地元の山菜は全く食べられず、残念な思いをしましたので、次年度は、地元産の山菜でなくとも、山菜料理で、ご利用者に季節を感じて頂くため、管理栄養士と連絡を密にし、食材を調達して頂けるようにして行きたいと思います。そして共に楽しめたらと考えています。

2) 排泄について

- ・ 其々の体質に合わせ、センナや漢方薬、食物繊維等で調整し、排便を促すことができました。今後も、状態に合わせ柔軟に対応して行きたいと思います。
- ・ 窓を開けられない環境の中、試行錯誤しながら消臭対策にも力を入れ、排泄物は新聞紙に包んでから処理するなどの工夫を行う等、消臭対策に努めてきました。

3) 入浴面について

- ・ 随時、状態に合わせた入浴方法を話し合い、統一することで、より安全で安楽な入浴を提供することができました。今後も気持ち良く入浴して頂けるように、状態を把握しながら、随時話し合いを持ち続けて行きたいと思います。
- ・ 終末期を迎えているの方の入浴においても、柔軟な対応と、2人体制で対応での個室の入浴を味わって頂き、体調の優れないときには、手指、足浴をすることで、少しは、爽快感を感じて頂けたと思います。

3. 家内のユニットの取り組みについて

- ・ 前年度は、気軽にティータイムができる場所を設け「此処に来るのが楽しみです」という声も聞かれましたが、認知症状の進行に伴い、利用することも減ったため、そこが物置にならないように、再検討の必要が出てきました。
- ・ 季節に合わせた設えは、今後も継続して行きたいと思います。

4. 行事等の取り組みについて

- ・ 行事は屋内中心となりましたが、夏祭り、敬老会、ラーメン食べ外食、餅つき、新年会等の行事が行われたことで、少しは気分転換になっていたと思います。
- ・ 誕生会では、手紙や面会時にお知らせをした結果、3組のご家族の方に出向いて頂き、一緒にケーキ作りに参加して頂きました。また、都合により来られなかった方は、プレゼントを当日まで届けて下さっています。

5. 一年を振り返って

- 1) 今年度は、あるご利用者の認知症の進行を追ってきた一年でした。昨日までできていたことが出来なくなり、人格も変化して行く様子を目の当たりにし、認知症が進む段階や認知症の方へのケアについて大変勉強させられました。

日々、変わる言動や状態を職員間で共有し、統一したケアができるようにと、その方の日記帳を設け、ケアにあたってきました。

また、東日本大震災や原発事故も乗り越えてきた 100 歳の方が、最期まで意識があり、私達にお別れするのを惜しむかのように最後まで声かけに頷かれ1月に旅立たれました。私達は、その方にもケアの面で色々学ばさせて頂きました。

このご利用者の方と生活を共にすることができ、誇りにも思いました。

- 2) 原発事故の影響により、室内での生活を余儀なくされ、不安を訴える方もおりましたが、月日が経つにつれ、次第に不安も軽減されてきたように思います。しかし、ご利用者にとって、本当にこの閉鎖された状態の環境で生活を送ることが本当に良いのだろうか、介護に当たる私達も日々悩んだことも事実です。私達も心が折れそうになりながらも、このような状況にいつまでも翻弄されてはいけないと、気持ちを切り替えケアに当たってきました。しかし、私達も人であり、以前の環境から今の環境に体を順応することは大変でした。このような状況（人員不足・環境の変化）の中、私達も乗り切れるか、また良いケアを提供できるか、今後も不安は続いています。

- 3) 北棟は2ユニットに縮小したため、夜勤者が1人体制となったものの、西棟の協力もあり、誰が入っても様子を把握できるようにと個別の特徴を作成し共有してきました。

- 4) 今までとは違い縮小された行事ではありましたが、それでもご利用者には、何も無かったかのように喜んで頂けた事や、また、ご利用者の中には、「遠いところに帰るんだから気を付けて帰ってな」とか、連休が続く顔を見せないと、「あー来てくれたのか、居ないとやっぱり寂しいから」と言って頂き、私達は、その言葉に救われたように思います。

今後も不安を抱えながらケアに当たらなくてはなりませんが、ご利用者には影響しない様に努めて行きたいと思います。